

1. 12月全国行事

1) 冬の省エネ総点検の日	12月1日
2) 大気汚染防止推進月間	12月1日～31日
3) 地球温暖化防止月間	12月1日～31日
4) 年末年始無災害運動	12月15日～1月15日

2. 安全・衛生・防災の心得 : 進めよう 職場の防火対策

3. システム監査 良い事例(抜粋)

4. 事故・災害事例から : 粉じんが堆積して塗装ブースで火災

5. ヒヤリハット事例 : 自動車ピラーの死角で自転車に気づくのが遅れた

2. 安全・衛生・防災の心得 : 進めよう 職場の防火対策

工場や倉庫、建設現場等の火災が後を絶ちません。特にこれからの時期は、空気が乾燥して火災が起きやすい環境になります。

消防庁では毎年11月に「秋季火災予防運動」として事業場等に対して一層の火災予防管理を呼びかけています。

私たちの職場でも次の事項の徹底を図りましょう。

1. 放火や自然発火を防ぐため、事業場や職場内外の4Sを徹底する。
2. 引火性・爆発性のものはリスクアセスメントを行って対策を実施し、安全取扱いマニュアル等にしたがって適切に取り扱う。
3. 溶接・溶断並びに火気を取り扱う作業を行うときは、周囲の可燃物の除去、防災シートの使用など、着火防止の措置を徹底する。
4. 電気コード、屋内配線や電気機器等に過熱の原因となる断線や欠損がないか点検・確認する。
5. 喫煙場所には水を入れた十分な大きさの吸殻入れを置く。
6. 火気使用場所では、手近で使いやすい場所に使用可能な消火器を配置しておく。
7. これからの時期、静電気の発生に要注意。
8. 万一火災等が発生した際の緊急処置や行動を周知徹底しておく、など。

当社でもこれまで時折火災が発生しており、また危険物を取り扱う事業場も多く存在します。一度発生すると重大な事態を招きかねない火災事故について事業場全体で防止に務めましょう。



クリエイティブコモンズ

3. システム監査 良い事例(抜粋)

①伊丹工場

工業用水配管の更新



②新潟工場

ショットブラスト機メンテナンス予定表



4.事故・災害事例から：粉じんが堆積して塗装ブースで火災（他社事例）

(1)災害のあらまし

金属製品の製造工場で、静電粉体塗装ラインの塗装ブースで、吹きつけガンの調子が悪くなったので、ラインを停めて2名でガンの取替え作業を行っていたところ、突然ブース内が火災となり、取替え作業中の2名が全身やけどなどの重傷を負ったものです。

(2)災害の主な原因

- 1) 塗装ブース内の壁や床等に可燃性の粉体塗料が5～6mmの厚さで付着・堆積していたこと。
- 2) ブース内に持ち込んでいた投光器を取り落とした際、破損して発光部が剥き出しになり、それが着火源となったこと。
- 3) ブース内に持ち込んだ投光器の構造や強度等が破損しやすいものだったこと。
- 4) 危険を伴う作業であるにもかかわらず、管理・監督者の安全指導がなかったこと、など。
- 3) 管理的要因：作業標準、手順書なし

(3)同種災害の防止対策例

- 1) ブース内での火災を防止するため、有効な除じん設備等を設置する。
- 2) 粉じんが多量に付着、堆積しないよう、頻繁に掃除、除去を行う。
- 3) 可燃性の粉じん等が発生する場所の照明器具等は着火源とならない構造のものとする。
- 4) ブース内での作業等、危険な非正常作業を行う際は、管理・監督者は作業主任者などとともに、安全衛生基準、作業手順等の遵守・徹底を図る、など。

(4)環境安全部から

当社でも加工工場を中心に塗装ブース内での作業は常に行われています。この事故のような粉体塗料の他に、有機溶剤や可燃性の物質を含む塗料も引火する危険性があります。使用する原材料や周囲にある物質の性状をよく理解し、まず安全な作業環境を確保しましょう。またショットブラスト機で使用する鉄粉等も堆積し、自然発火する例があります。常に清掃を心がけましょう。

5. ヒヤリハット事例：自動車ピラーの死角で自転車に気づくのが遅れた

事例	自動車ピラーの死角で自転車に気づくのが遅れた
どこで	信号のある交差点で
あらまし	右折しようとした際、自動車前方ピラーが死角となり横断する自転車に気づくのが遅れ、ハッとした。
原因	自動車の特性（死角等の把握）の不足および危険性回避の余裕が足りなかった
教訓・対策	死角箇所の把握と交差点での徐行心がけ